

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4272300197
法人名	社会福祉法人 ふるさと
事業所名	第2グループホーム ふるさと
訪問調査日	平成 21 年 1 月 19 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 19 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4272300197
法人名	社会福祉法人 ふるさと
事業所名	第2グループホーム ふるさと
所在地 (電話番号)	長崎県西海市西海町木場郷1445番地 (電話) 0959-32-2266

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成21年1月19日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成 20年 12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金森医院、たいら医院、真珠園療養所、大串歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「森の家族」と表現しているように、騒音もなく、森の中でゆったり生活しているような閑静な場所に佇んでいる。建物も木の温もりを味わえる県産の木材を使用した家屋で、共用空間が広々として圧迫感がなく、利用者は、和やかでゆったり、のんびりとした日常生活を送っている様子がうかがわれる。
「地域の福祉力の向上」を目指している運営者の思いから、「共助共援」という理念のもと、地域住民、行政、各関係機関との連携を密にしている。利用者も地域の一員として、地域のイベントに参加したり、事業所の行事への参加を呼びかけたりして、地域住民との交流を深めている。まさに、地域密着型としての取り組みが活発な事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価から課題を見出し、職員間の情報共有に特に力を注いでおり、報告・連絡・相談の徹底を図っている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の項目ごとに勉強会を実施し、評価の意義や目的、項目の理解を促すよう取り組んでいる。また、職員全員が自己評価を行い、その後意見を集約し、改善点等に対しては対策を検討し、取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
②	運営推進会議は地域住民、家族、行政、社会福祉協議会の職員に加え、今年度より民生委員にも参加してもらい、それぞれの立場からの意見や要望を受けて、サービスの向上に活かしている。また、会議だけでなく行事等への参加も得ており、交流を図るなかでも意見をもらい、反映させるよう努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
③	ホーム便りや行事等の写真を家族に送付し、ホームでの生活状況がわかりやすいように報告するとともに、家族の面会時にも必ず近況を報告し、家族からの要望や意見を聴く機会も持っている。また、体調や心身の変化があったときには、その都度連絡し話し合っ、スムーズに対応できるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
④	地域の商店や地域のまちづくりグループが開催するイベントなどに積極的に参加している。地元の小・中学校や幼稚園児との交流も行っており、子どもたちにも利用者にも喜ばれている。また、ホームで開催するバザーの収益金を寄付するなどの取り組みも行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざしたホームづくりを目標に掲げており、地域全体の福祉力の向上を目指し、すべての人間同士の「共助共援」を理念としている。また、毎月職員間で協議し、目標を決めて実践に向けた取り組みの行動指針としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「共助共援」を理念とし、毎月目標を決めて、実践に向けた取り組みの行動指針としている。目標についての話し合い、毎日のミーティング、職場内研修時に理念を共有し、目標を確認し合い、常に念頭において支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の商店や地域のまちづくりグループが開催するイベントなどに積極的に参加している。敬老会やバザー開催時の呼びかけや交流等、地域住民との交流を積極的に図っている。地元の小・中学校や幼稚園児との交流も行っており、子どもたちにも利用者にも喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目ごとに職員の勉強会を実施し、意義や目的、項目の内容を理解した上で、全職員で自己評価に取り組んでいる。改善点があれば、すぐに協議し対策を講じている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域住民、家族、行政、社会福祉協議会の職員に加え、今年度より民生委員にも参加してもらい、それぞれの立場からの意見や要望を受けて、サービスの向上に活かしている。また、会議だけでなく行事等への参加も得ており、交流を図るなかでも意見をもらい、反映させるよう努めている。		

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市直営の地域包括支援センターと毎月情報交換を行っている。また、地域密着型サービス事業所の市内連絡協議会の世話人をしており、連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ず近況報告を行っている。3ヶ月に1回はホーム便りを発行し、行事や生活の状況を報告している。また、利用者ごとに日常の生活状況を綴った写真付きの手紙を家族へ送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情や意見をいつでも申し立てられるように配慮している。また、面会の際などに家族と話し合う機会を持ち、要望や意見を引き出すよう努めており、家族等の意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にできるように検討し、利用者のなじみの職員が対応できるようにしている。職員の異動がある場合は、十分に引き継ぎを行い、利用者に影響のないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者はコーチング、スーパーバイザーの研修を受講しており、職員を育てる意欲は十分で、職員が学ぶ機会がきちんと確保されている。職員は、研修等に参加後に復命し、伝達研修等による職員間での情報の共有も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内には12箇所のグループホームがあり、研修会や行事等で情報交換を行ったり、事業所が任意で集まったネットワークが開催する勉強会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は、本人、家族ともに見学に訪れてもらい、事業所の雰囲気を感じてもらえるよう配慮している。また、頻りに外出したり、家族の協力を得て面会を多くしたりして、入居したら出られなくなるという意識をもたれないように、できるだけ不安感を抱かないように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者及び職員は、利用者に対して人生の先輩であるという意識を持ち、常に笑顔で接し、ともに喜怒哀楽を分かち合い、信頼関係をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や交流の中で、利用者一人ひとりの意向や希望を把握するようにしている。元気がない時などは声をかけ寄り添いながら、思いを把握するよう努めている。また、家族とも相談しながら本人本位に支援するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的な記録などを参考にモニタリングし、カンファレンスにおいて職員が意見を出し合い総合的に検討し、安心して生活できるよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2～3ヶ月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。また、利用者の身体的、精神的変化があったときには、医師や関係者と相談しながら、随時計画の見直しを行っている。		

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「ホームはあなたの別荘です」というコンセプトで、本人や家族の状況に臨機応変に対応している。面会時間や帰宅の支援などに柔軟に対応したり、通院の支援やお墓参り、お寺参りなどの支援をしたりして、利用者や家族が安心して生活できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて、以前からのかかりつけ医を受診できるよう支援しており、通院介助や訪問診療など、個々のケースにより柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、看取りに関するホームの指針をよく説明し、重度化した場合は、関係者と最もよい方針を話し合い、全職員で共有している。また、本人及び家族に説明し、納得のうえで支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的な会話の中でも、言葉遣いには特に気をつけており、他人に聞かれたくないことなどは居室等で話すようにしている。また、忙しいときなどは、配慮に欠けた言動をしないように特に留意して接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の動きや状況に応じて、その人のペースにできるだけ合わせて支援している。利用者の希望やペースに合わせて、入浴時間を調整したり、外出や散歩、日光浴等を行ったりしている。		

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように、ホームの菜園で作った野菜を収穫して材料にしたり、一緒に味付けや後片付けなどをしたりしている。利用者の食べたいものがあれば、メニューに取り入れるようにしており、職員も一緒に楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後から入浴ができるようにしているが、利用者の希望やそのときの状況に合わせて支援している。また、入浴剤などを使用し、温泉気分を味わったり、気分よく過ごせるようにしたりして、入浴を楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の多くは農漁業の生活が長く、昔を思い出し懐かしむとともに、気晴らしとなるように、菜園の草むしりや根付、大きな魚などの下処理などをしてもらっている。また、郷土料理を作るなど、地域性のある暮らしを味わい、楽しんでもらえるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは閑静な場所にあり、散歩やひなたぼっこなどは、日常的に楽しめるように柔軟に対応している。地域の行事への参加はもちろんのこと、季節に合わせてピクニックや花見にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が施錠について身体拘束に等しいと認識しており、日中は玄関の鍵はかけず、見守りを基本とし、玄関のセンサーにより、人の出入りにすぐに対応できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は毎月1回行っている。また、法人全体で、消防、警察、自治会を招いて、防災懇話会を毎年開催し、防災及び有事の際の協力を呼びかけるとともに、職員の防災意識の向上を図っている。ホームの近隣の住民3軒には、緊急連絡先として登録してもらい、災害時の協力を依頼している。		

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が作成した献立表に基づき、摂取カロリーや栄養バランスに配慮している。食事や水分の摂取量もチェック表に記録し、分かるようにしている。栄養が不足気味の利用者には、ゼリーやみかんなどを摂ってもらうことで不足分を補ったり、お茶の時間や就寝前に水分補給したりして、十分な摂取量となるよう気がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	総木造りの建物は、木の温もりが感じられるゆったりとした空間が広がっている。共有空間は広々として天井も高く、照明も優しい光のものをを使い、圧迫感がなく、配慮されている。リビングルームには、利用者と職員協働の手作りの作品や植物、花などが飾られており、生活感や季節感を十分に取り入れ、居心地のよい工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができ、仏壇や家族の写真等を飾っている。本人や家族の希望に合わせた自由なレイアウトが施されており、居心地よく過ごせるようになっている。		